

日時 令和3年12月16日(木)  
午前10時00分～午後0時15分  
場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

第4回  
さいたま市市民活動推進委員会  
会議録

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 令和3年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について
  - (2) 市民活動及び協働の推進について
- 3 その他
- 4 閉会

さいたま市市民局市民生活部  
市民協働推進課

出席者名簿

委員  
(50音順)

阿部	成男	(市民活動団体の代表者)
新井	恭代	(公募により募集した市民)
織田	真由美	(市職員)
尾館	祐平	(市民活動団体の代表者)
佐々木	誠	(学識経験を有する者)
島田	正次	(市民活動団体の代表者)
田中	亜弓	(公募により募集した市民)
谷崎	美智子	(公募により募集した市民)
福島	まり子	(市民活動団体の代表者)
藤原	悌子	(市民活動団体の代表者)
松岡	進	(公募により募集した市民)
山口	恵美子	(市民活動団体の代表者)
山本	和広	(市民活動団体の代表者)

事務局

金子	芳久	(市民協働推進課課長)
千葉	元博	(市民協働推進課係長)
中川	菜々子	(市民協働推進課主事)
高橋	隼	(市民協働推進課主事)

欠席者

池田	宏	(大学又は事業者の代表者)
大木	洵人	(公募により募集した市民)
大高	研道	(学識経験を有する者)
岡	志寿子	(公募により募集した市民)
永沢	映	(学識経験を有する者)
古川	晶子	(市民活動団体の代表者)
横山	由紀子	(大学又は事業者の代表者)

## 1 開会

- 定足数の確認
- 傍聴者の確認

## 2 議題

- 議題（1）令和3年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について

### ○事務局

令和3年度マッチングファンド進捗状況について説明。

### ○佐々木委員長

ただいまの説明に対して質問はありますか。特になければ私から委員の皆様へ、このマッチングファンド事業の中で参加した方がいればお聞きしたいです。

### ○福島委員

市民活動夢マルシェに参加しました。団体数も多く、楽しいイメージで市民活動を周知するようなイベントだったと思います。

### ○尾館委員

岩槻ホテルの会の事業に参加しました。また、太田資正の事業は団体の方の話では、遠方からお越しいただいた参加者もいるなど好評だったと聞いています。

### ○谷崎委員

市民活動夢マルシェに参加しました。お天気もよく、たくさんの方が参加していて、賑わっていた印象です。

### ○佐々木委員長

子育てサロンの事業が複数あって、お互いに連携を取れば良いという意見があったかと思いますがいかがでしょうか。

### ○事務局

年度の初めに Happy-Casket とめぐみか、市民協働推進課の3者で今後のスケジュールや事業内容について打ち合わせを行いました。事業を開始して半年ほど経過するので、改めて3者で連携を取ればと考えております。

○新井委員

めぐみかさんの講座チラシの配架など協力させていただき話をしました。参加者の応募も好調なようです。

○佐々木委員長

ありがとうございます。

■議題（２）市民活動及び協働の推進について

○佐々木委員長

第４回の討議の前に、第３回は感染症拡大の影響で書面開催としましたので、その内容について、振り返りつつ、本日と今後の討議の方向性を少しお話しさせていただきます。

第３回では、「理想の姿」と「問題」について、書面で２度意見の提出をいただきました。また、その間、提出のあった意見書について、事務局から電話で意見の聞き取りを行っています。

このやり取りを経て作成したものが資料２です。この資料２をまとめるうえでは、今年度策定される指針の基とも言うべき、第７期答申の分類を参照しました。

第２回委員会でもふれたように、今期の第８期の答申は、第７期答申の中長期的な方向性という抽象的なものではなく、今後数年で取り組むべき具体的な施策でなければなりません。そこで、第７期答申で示された方向性に従い今回の資料を分類することで、新しく策定される指針の方向性に考え方を親和させたということです。

そこで、今回は、この資料２を参考に、問題を引き起こしている「原因」と「課題」について討議してもらいます。ただし、資料にあるのは、今起きている問題ですから、現状認識のためにもまとめる必要はないと思い、課題に限り第７期答申に従い整理するにとどめました。

そして、今後のことも考えながら討議を進めたいと思います。

ご存じのとおり、行政の資源は今後ますます限られたものになると言われています。そのため、第８期答申では、課題に対する対応策を一定程度限定的な数とし、市には限られた資源を有効に活用し、重点的に取り組んでもらうことが必要になるのではないかと感じています。

意見を収束させて答申するために、本日の第４回の討議から、皆さんが大切にしたい意見や考えを討議の中でまとめる手法を取り入れています。詳しくは、事務局から資料に従い説明してもらいます。よろしくお願いいたします。

○事務局

資料２～資料４に沿って説明。

グループ分けや時間管理について説明。

○山本委員

諮問の内容や今後の方向性、各回の委員会の到達目標についての資料を1枚で良いので、毎回ご提示いただけるとありがたいです。

○事務局

委員長と相談しながら資料を作成いたします。

ワークショップ席移動。

《ワークショップ 2ラウンド》

《途中5分休憩》

《ワークショップ 2ラウンド》

○事務局

それでは、ワークショップの振り返りを行います。各グループ順番に模造紙を前に張り出していただいて、グループで関心が高かったシールの多い付箋のキーワードについて、どうい話し合いがされたのか、話し合いで見えた根本的な原因を3分以内に発表いただければと思います。発表後、質疑の時間を1分間取りたいと思います。

それでは、委員長に進行をお返しします。

○佐々木委員長

各グループには3分以内で発表をしていただきます。Cグループから貼っていただいて、発表をお願いします。

○福島委員

市民活動において、趣味の会は市民活動団体なのかという問いがあり、そこを深掘りしました。市民や行政の方の理解を得られない、自分たちも市民活動ではないと思っている、周りは趣味の会というふうに認識している団体、それから、事業収入をきっちり得ている営利団体に見えるような団体も、自分たちが市民活動団体であるということをきちんと認識していないことが課題かなという話になりました。

もう一つは、スピード感。時代に対応しながら成長していくという姿勢がなかなか団体には少ないというのが、大きな課題ですね。

それから、多様な主体の交流の促進ということで、現在コロナ禍もあるので、インターネ

ットを活用して、交流につなげるということは必要だけれども、なかなかそれが具体的にできていない現状があると思います。行政も今やっと取りかかったばかりで完成していないということなので、ここも課題だと思われます。

○佐々木委員長

何か質問があればいかがですか。趣味の会が市民活動に含まれるのか対話があったということですが、結論は出たのでしょうか。

○福島委員

それも市民活動あれも市民活動という話になりました。

○佐々木委員長

特に結論は出なかったということでしょうか。

○福島委員

趣味の会も市民活動団体であると周知されていないことが課題かなという結論です。

○松岡委員

趣味の会だけではなくて、そこから少し前に進んで啓蒙とか趣味の会でやっている文化的なことを広げていくと、市民活動らしくなるのではという話し合いもありました。

○佐々木委員長

市民活動の幅をどう考えて進むかですね。この趣味の活動はどうかというのと、あと市民活動らしいという言葉は、何かあるフィルターがかかっている感じもしますよね。そのあたり一つのテーマだなというのがちょっと見えてきたような感じがします。

次はBグループお願いします。

○尾館委員

シールが多い順に発表していきます。まず、一つ目が、繋がりを持とうとしていないということ。新しく入ってくる人が生活するだけの街になっていて、なかなか輪に入ってこないというところで、多様な主体の交流であったり、団体間との交流も少ない。自分たちがやっていることで満足して、あまりすそ野を広げようとしていないところが課題ではないか。

そこで第三者が介入して紹介してくれると、輪に入りやすかったり、新しく関わりを持ちやすいのかなと思います。団体には発信力のある団体も多いですが、その発信の信頼性がなかなか新しい人に見えてこないというところで、自治体が協賛とか協力みたいな感じで、一言加えてくれたりすると情報の信頼感が増して、新しいところに入れるのではないかとい

うことも挙げられました。

あとは、オンライン対応をしても、参加者がオンライン対応していないということ。主催者がどれだけ頑張っても、アナログな人もいるのでギャップがあると思います。

そして、活動の継続ということで、新しい人たちが仕切ろうとしても、気を使ってしまったり、後継者がいないということが課題として挙げられています。

さらに、年齢層について、担い手育成は、そもそも年齢差を歓迎しないと育成できないのではないかとこの年齢差をどう受け入れていくか。仕事を任せるって大変かなと思うのですが、代表がやっていることの引き継ぎや分担とかが、まだまだできていないところが多いのではないかとこのことが挙げられていました。

他には、行政の取り組みと市民活動団体の取り組みの違い。行政には行政のルールがあって、それにのっとってやりたい。団体には団体の中でルールがあって、それにそってやりたい。行政と団体に同じ目的があったとしても、協働するためのルールが整っていなかったりすることが課題ではないかという意見も出ていました。

最後になりますが、団体がレベルアップして10人から50人とかに規模が上がってくると、どこまでしっかりやっていくのか基準がなかったり、あとはお金や人数の管理というところがなかなか難しいという意見もありました。その中で理念と趣旨の共有ができていない人たちをどう対応していくか。そういったところが、代表だけでは難しかったり、いるメンバーでもノウハウが無いと難しいのではないかとこの意見が出ました。なので、プロボノ等のコーディネーターの役割がより重要になってくるのではないかとこの意見が挙げられていました。以上です。

#### ○佐々木委員長

非常にストーリーができていて説明でわかりやすかったなと思いました。このグループの中で一番多かった意見に挙がっていた第三者というのは行政ってことですね。

#### ○尾館委員

紹介者みたいなイメージです。新しく入りたいと思っても、その信頼感が薄くて見えてこなかったりするので、なにか口コミがあって、あの団体はこういうことをやっています、こういう人がいますなど、第三者的な視点を持っている人がいると助かるのではないかとこの意見です。

#### ○佐々木委員長

それは行政なのでしょうか。

#### ○尾館委員

グループで挙がったのは、自治体がそういう役割を持っていてもいいのではないかとこの

う意見でした。

○佐々木委員長

聞きながら思ったのは、飲食店なんかは、評価サイトみたいなものがあるじゃないですか。別に自治体じゃなくてもいいのではないかなと思ったりしたのですが、そういう話が出なかったでしょうか。

○尾館委員

そこまでの話が出ていなかったですが、第三者的な視点があると情報のリソースの信頼性が高まるのではないかなということです。

○佐々木委員長

なるほど。信頼に繋がってくるという話ですね。ありがとうございます。最後はAグループお願いします。

○藤原委員

私どものところで一番の大きなテーマになったのは、趣味の会がどう位置付けられるかという阿部さんからの質問だったんですね。そこからいろいろ考えたりしていくと、趣味でやっている会ということがまず原点にあって、ちょっとしたお年寄りのラジオ体操だとか、市民活動ではないと思われるかもしれないけれど、どんな小さな集まりでも、2人集まって何か起こしたら市民活動だというようなことから話し合いました。

それをもう少し人を増やしたい、持続可能にしたいという時には、やっぱりそれは市民活動だと思います。自分たちがそば打ちでもなんでも、それをすることによって元気な人たちがここにいて、社会で寝たきりを減らす。そういうことに立派に貢献しているという一つの活動の理念という大げさかもしれないけども、なぜこの活動をするのかをまとめて、もし聞かれたらすぐに発信できるようにしておくことが大事だと思うんですね。

情報発信ではビジョンとか、活動をなぜやるのかということが大事になってくると思います。ビジョンとかそういうのを共有する機会がないというけれども、これは人から言われてやることじゃなくて、何人かの人がやろうよと言ったそのボランティアアクションっていう、ボランティアは奉仕ではなくて積極的という意味ですから、何しろ積極的に市民が動くものだと思います。市民が2人で集まってやろうとしたことは変わらなくていいですよ。それに行政がついてこなきゃいけない。行政は、これが本当に資する活動で、ありがたいなと思ったら、もっともっと市民活動を調べて、関わって、自分たちは何が応援できるか検討する。そうすると私たちでやってあげるおかげで行政のお金は少し助かるわけです。行政こそが市民活動をよく見つめて、応援して欲しいというふうに思います。



○佐々木委員長

藤原さんの 20 年間の思いがすごくにじんんでいるなというところで、印象深かったのは、一番最初に藤原さんが何を書いたらいいのかしらと言った中で一つ書いてくださったのが、活動がレベルアップしたときの対応に苦慮ということでした。今まで 20 年間活動されてきて、成果も上がっている中で、さらにその先に行くという、何かちょっと次元が違うなという感じで、もう何年も先をいっているようなコメントもありました。

後半は、阿部さんの活動を参考に話し合いが盛り上がりました。何か質問とかコメントがもしあればいかがでしょうか。もう時間もないということですので、以上でこのワークショップを終了とさせていただきます。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

議事録署名委員

委員長

佐々木 誠